

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問五（出典：『堤中納言物語』）

◎品詞分解（非活用語は初出のみで、名詞は基本的に非表示。同色の助詞は同内容であることを示す。）

口つきも愛敬係助カ四・用接助づきて、清ナリげなれど、齒黒カ下二・未打消・已接助（願使）めつけねば、いと世カ四・未打消・終づかず。化粧サ変・用完了・未接助（願使）したらば、清ナリげにありぬへし。心憂ク・用くもあるかなラ変・体格助とおぼゆ。かくカ下二・終までやつしたれど、見クにくくなどはあら、いと様ナリことに、あざやかにけだかく、はれやかなるさまぞあたらしき。練色格助シク・体の綾格助（体修）の桂一襲、はたおりめの小桂一襲、白クき袴マ四・用を好カ上みて着たまへり。この虫クを、いとよく見クむと思ハ四・用ひて、さし出サ四・用でて、「あなめ感形（語幹）終助でたや。日格助ラ四・未変身・体格助シク・巴にあハ四・用ぶらるるが苦クしければ、こなたさまカ変・体断定・用詠嘆・終に来るなりけり。これサ四・未を一つも落ハ四・用とさて追ハ四・用ひおこせよ。童尊（作し姫）べとのたまへば、突カ四・用き落サ四・已接助（偶感）とせば、はらはらと落タ上二・終つ。白クき扇格助（同格）の、墨黒カ下二・終に真名サ変・用の手習サ四・用ひしたるをさし出サ四・用でて、「これハ四・用に拾ハ四・用ひ入れよ」とのたまへば、童ラ四・用べ取り出ラ四・用づる。皆君達シク・用も、あさまラ変・用しう、災難ラ変・体あるわたりクに、こよなくもラ変・体あるかなハ四・用と思ハ四・用ひて、この人ハ四・用を思ハ四・用ひて、いみじシク・終と君係助マ上二・用尊（作し臣）は見ハ四・用たまふ（※1）。

※1：「君」は君達のうちの一人「右馬の助」を指す。周囲が姫君に批判的な見方をする中、右馬の助だけは肯定的に捉えている。なおこの場面では、君達は全員女装して虫愛づる姫君の様子を垣間見ている。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）